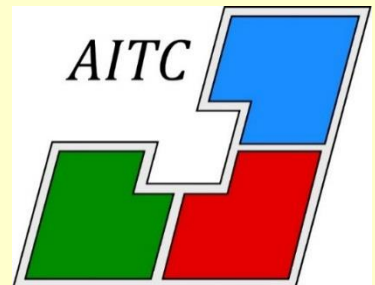


～あおもりの未来、技術でサポート～

令和5年度（2023年度）
青森県産業技術センター畜産研究所
本所要覧



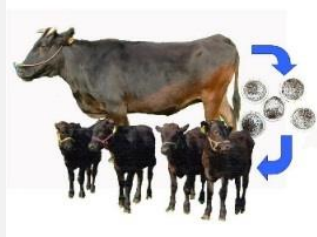
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 畜産研究所
〒039-3156 青森県上北郡野辺地町字枇杷野51
電話0175-64-2231 FAX0175-64-2230
HPは「青森産技」で検索 Youtube公式チャンネルもあります。

主な業務の概要

繁殖技術肉牛部

● 受精卵移植技術の研究開発

- ・受精卵移植(ET)関連技術の開発
- ・ET技術を活用した黒毛和種の種雄候補牛生産



優良牛からの採卵



顕微授精と割球分離の併用で一卵性の雄双子誕生(全国初)



未受精卵への顕微授精



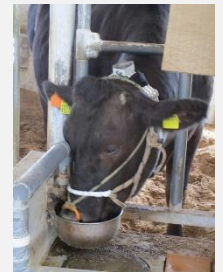
顕微授精での生産牛

● ICTを活用したストレスフリーな「青森県産和牛」の肥育技術に関する試験・研究開発

- ・採食量、飲水量、横臥時間等をモニタリングするデバイス及びシステムを開発するとともに、アニマルウェルフェアに配慮した肥育牛の飼養環境改善効果を検証



飼養環境の改善効果検証



温水給与の効果実証

● 日本短角種の種雄牛生産(産肉能力直接検定)

- ・北東北の特定品種である日本短角種の優良雄子牛を直接検定し種雄牛として選抜



1頭ごとに飼料摂取量を調査



生産された種雄牛

中小家畜・シャモロック部

● 「青森シャモロック」と「あすなる卵鶏」の育種改良

- ・特産地鶏「青森シャモロック」や緑の卵殻で黄身の大きい「あすなる卵」を生産する「あすなる卵鶏」の遺伝子解析による育種改良



「青森シャモロック」の父と母
父:横斑シャモ
母:速羽性横斑プリマスロック
詳しくは「あおもりのこだわり良品商店街」でネット検索



青森県が全国に誇る地鶏の逸品「青森シャモロック」



「あすなる卵鶏」



緑の玉子「あすなる卵」:卵黄割合が通常鶏より3%多い

「青森シャモロック」と「あすなる卵鶏」のひな供給

<供給羽数> (R4年度実績)

- ・「青森シャモロック」17,440羽/年
(うち宮内庁御料牧場1,750羽)
- ・「あすなる卵鶏」 5,029羽/年
- ・特に「青森シャモロック」の年間生産羽数は37,575羽で県内外の飲食店及びネットショップ等で販売



「青森シャモロック」(左)と「あすなる卵鶏」(右)のヒナ



出荷前のワクチン接種

酪農飼料環境部

労働力不足に対応するスマート農業の取組

- ・自動運転トラクタによる牧草・飼料作物の栽培調製技術
- ・ICT等を活用した乳用牛の生産性向上技術



自動運転トラクタ



ウェアラブルセンサーによる発情発見



餌寄せロボット

乳牛の飼養管理技術の研究開発

- ・乳用牛の潜在性子宮内膜炎による受胎性低下対策技術
- ・乳用牛の牛体冷却による暑熱期の生産性・受胎性低下対策技術



タンデム式ミルクパーラー



フリーストール牛舎



ミスト噴霧による牛舎内冷却

牧草・飼料作物の栽培調製技術の研究開発等

- ・機能性牧草生産技術
- ・飼料・土壌受託分析
- ・粗飼料生産業務



牧草短草利用による嗜好性向上実証試験



ミネラル制御による機能性付加試験

受託業務

- ・乳用牛群検定情報分析センター業務
- ・牧草・飼料作物優良品種選定試験
- ・牧草及び飼料用トウモロコシ作況調査



飼料用トウモロコシ優良品種選定試験

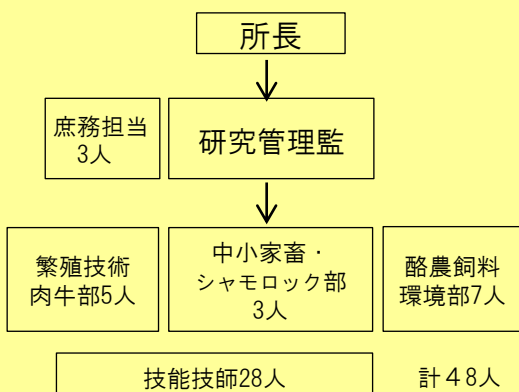
沿 革

- 大正元年(1912) 上北郡七戸町に青森県種馬育成所として創設
- 大正13年(1924) 青森県種畜場に改称
- 昭和24年(1949) 農林省青森種畜牧場野辺地支場が廃止されたのに伴い、国より同用地と施設全部の委譲を受け現在の野辺地町に移転
- 昭和31年(1956) 青森県種畜場と併設して青森県畜産試験場を新設
- 昭和40年(1965) 青森県種畜場を発展的に統合廃止し青森県畜産試験場に改組
- 昭和45年(1970) 現在の総合庁舎落成
- 昭和62年(1987) 金木町の養鶏指導所及び森田村の畜産指導所を統合し畜産試験場森田支場に改組
- 昭和63年(1988) 五戸町の養鶏試験場を畜産試験場五戸支場に改組
- 平成13年(2001) 森田支場を和牛改良技術センターに改組。五戸支場を廃止し養鶏部を新設。田子町に和牛改良資源センターを新設
- 平成15年(2003) 青森県農林総合研究センター畜産試験場に改組
- 平成16年(2004) 養鶏部（五戸町）を本場内に移転
- 平成21年(2009) 地方独立行政法人青森県産業技術センター畜産研究所に移行
- 平成24年(2012) 和牛改良資源部（田子町）を本所に統合、養豚部門を縮小現在に至る。

本所 土地区分

区分	面積
総面積	186.7ha
(内訳) 牧草地	63.0
飼料用トウモロコシ畑	10.0

本所 組織体制

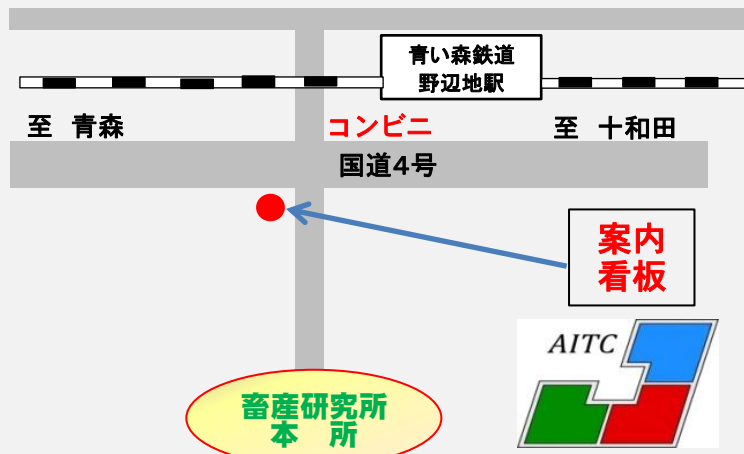


本所 飼養頭羽数(R5.2.1)

区分	頭羽数	備考
黒毛和種	80	繁殖雌牛、子牛、肥育
日本短角種	15	種雄牛、繁殖牛、肥育
交雑種	11	受卵牛、育成
乳用種	50	搾乳牛、育成、子牛
計	156頭	
肉用鶏	1,764	青森シャモロック種鶏、 コマーシャル鶏
卵用鶏	1,234	あすなる卵鶏種鶏、 コマーシャル鶏
計	2,998羽	

アクセス

青い森鉄道 野辺地駅下車 徒歩15分



和牛改良技術部

畜産研究所本所

